

列聖について

正教会において「列聖」とは、その構成員の中のある者を「聖人の列に加える」件について決定を為すことです。

列聖の対象は既に永眠した者で、列聖の案件として挙げた場合には、列聖の条件に基づいて厳密な調査が行なわれます(生前の信仰の姿、奇蹟、不朽体、致命などについての様々な情報から、正確な情報を精査します)。教会におけるこの作業は言わずもがな重要な責任を背負ったものであり、ロシア正教会の場合は、シノド(宗務院)の列聖委員会が最終的な決定を行ないます。

シノドが列聖を決定した日が、その聖人にとって「列聖日」となります。新たに列聖された聖人を公表する式典は盛大に行なわれます。まず、彼の最後のパニヒダが行なわれ、その後、「聖人伝」が誦読されます。またイコンのお披露目、トロパリ、コンダクの歌唱が行なわれます。

聖人の記憶日は、通常その聖人の永眠日です。(不朽体の遷座や前駆受洗イオアンのように首の発見された日なども記憶日となる聖人もあります)。

一つの完全独立教会が新たに聖人を列聖すると、彼の名は教会暦に記入され、他の完全独立教会に紹介されます。他の完全独立教会は、その新聖人を自分の教会暦に加えることができます。(例:ロシア正教会の教会暦にあるアラスカの聖ゲルマンやアトスの聖シルアンは、それぞれアメリカ正教会、コンスタンチノーブル正教会において列聖された聖人です)。

聖人であることとは、致命、修業、敬虔などの多くの要素を含みながら、その最大の特徴は、その生涯が「聖」であることです。そして、その聖人の生涯が、今生きている教会の構成員にとって信仰のエネルギーとなり、その聖人からの転達を祈りにおいて感じられることです。

また聖人とは、列聖によって世に現われた者だけでなく、世間に知られずに(=列聖の案件の俎上に載らずに)世を去った者も多くいたであろうことも心に留め置きたいものです。

(2018 年度北海道ブロック誦経・聖歌研修会資料 作成:スヴェトラナ山崎ひとみ)